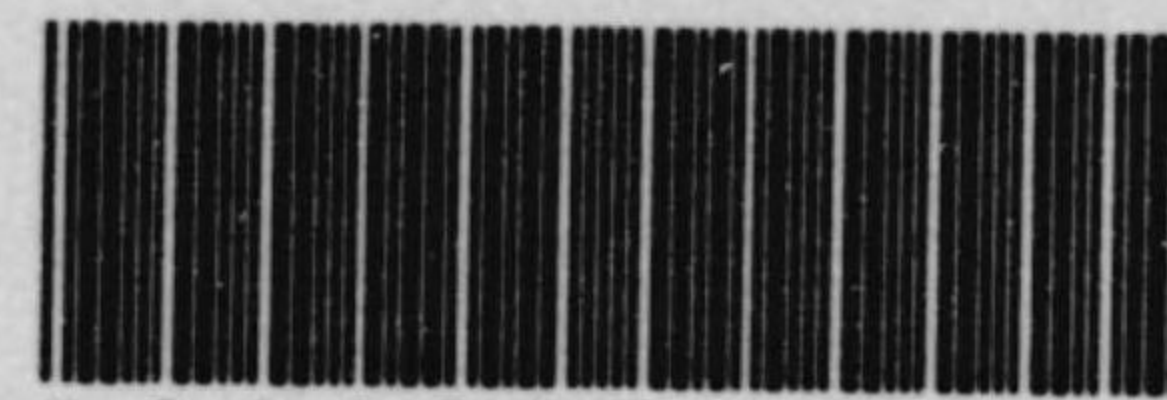


特 243

551



* 0048308000 *

0048308-000

特 243-551

學習用木工製図

日本工芸学会

昭和 13

AHI

384

特 243

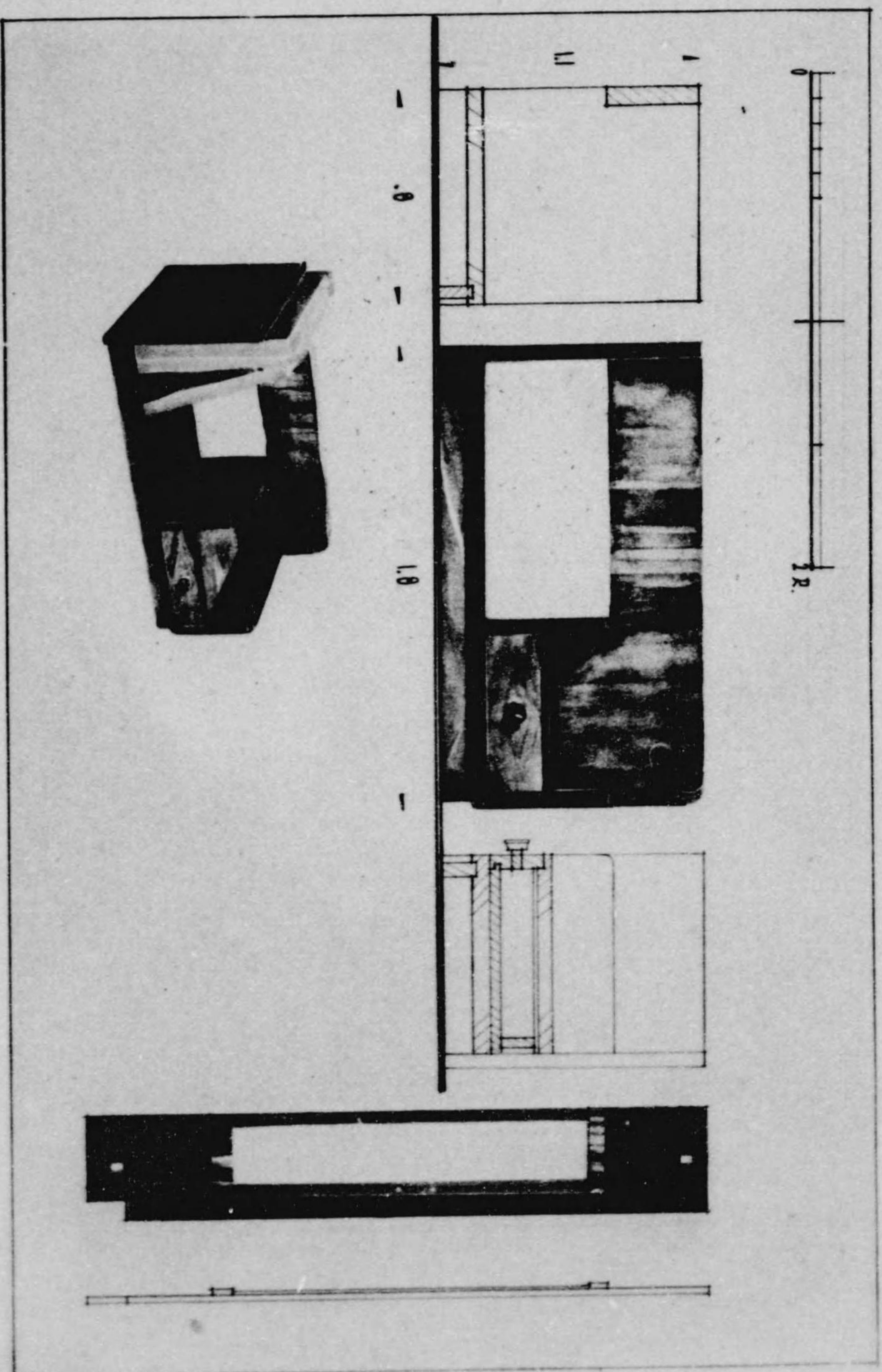
551

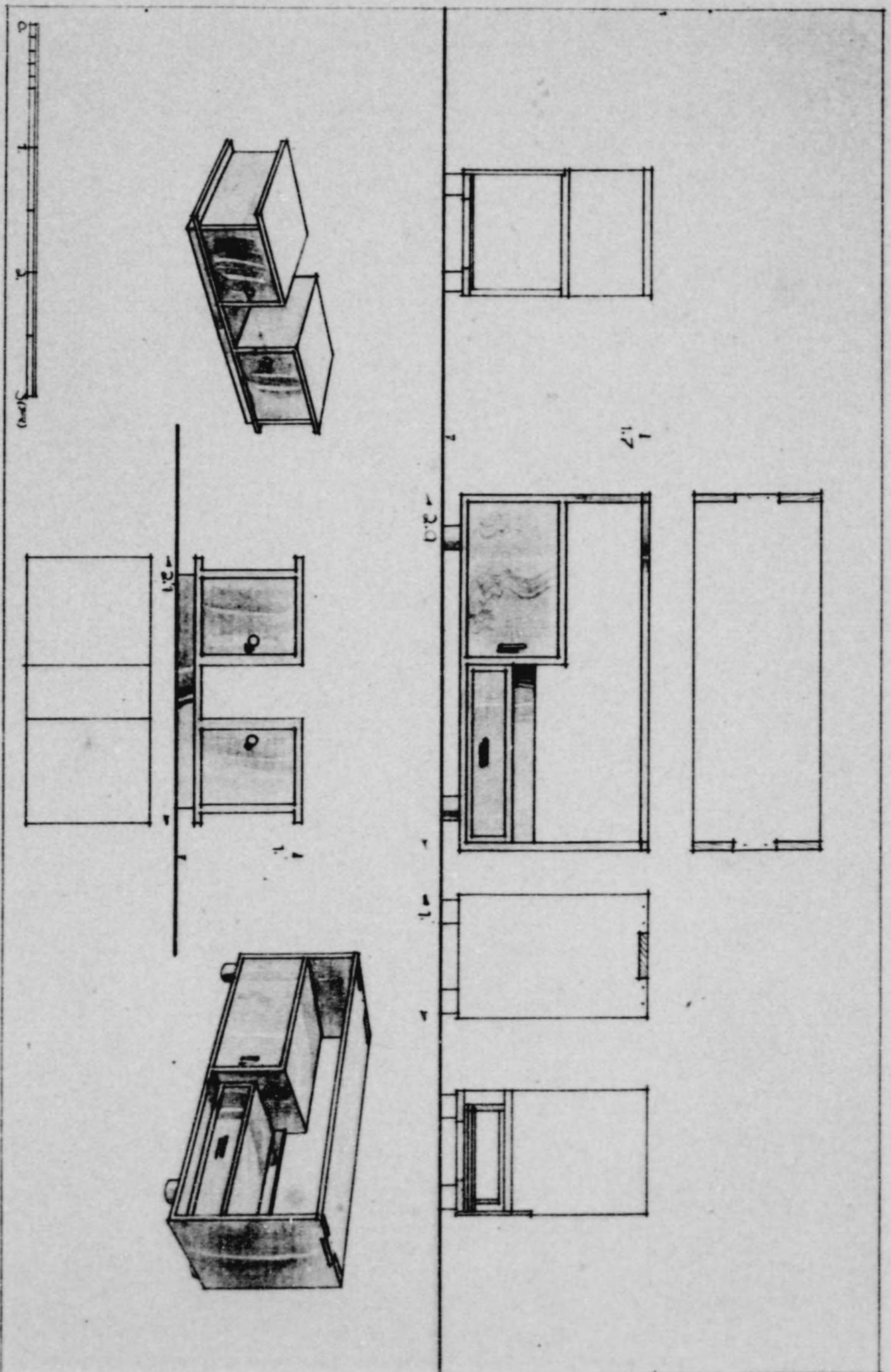
用 習 學

圖 製 工 木

會 學 藝 工 本 日

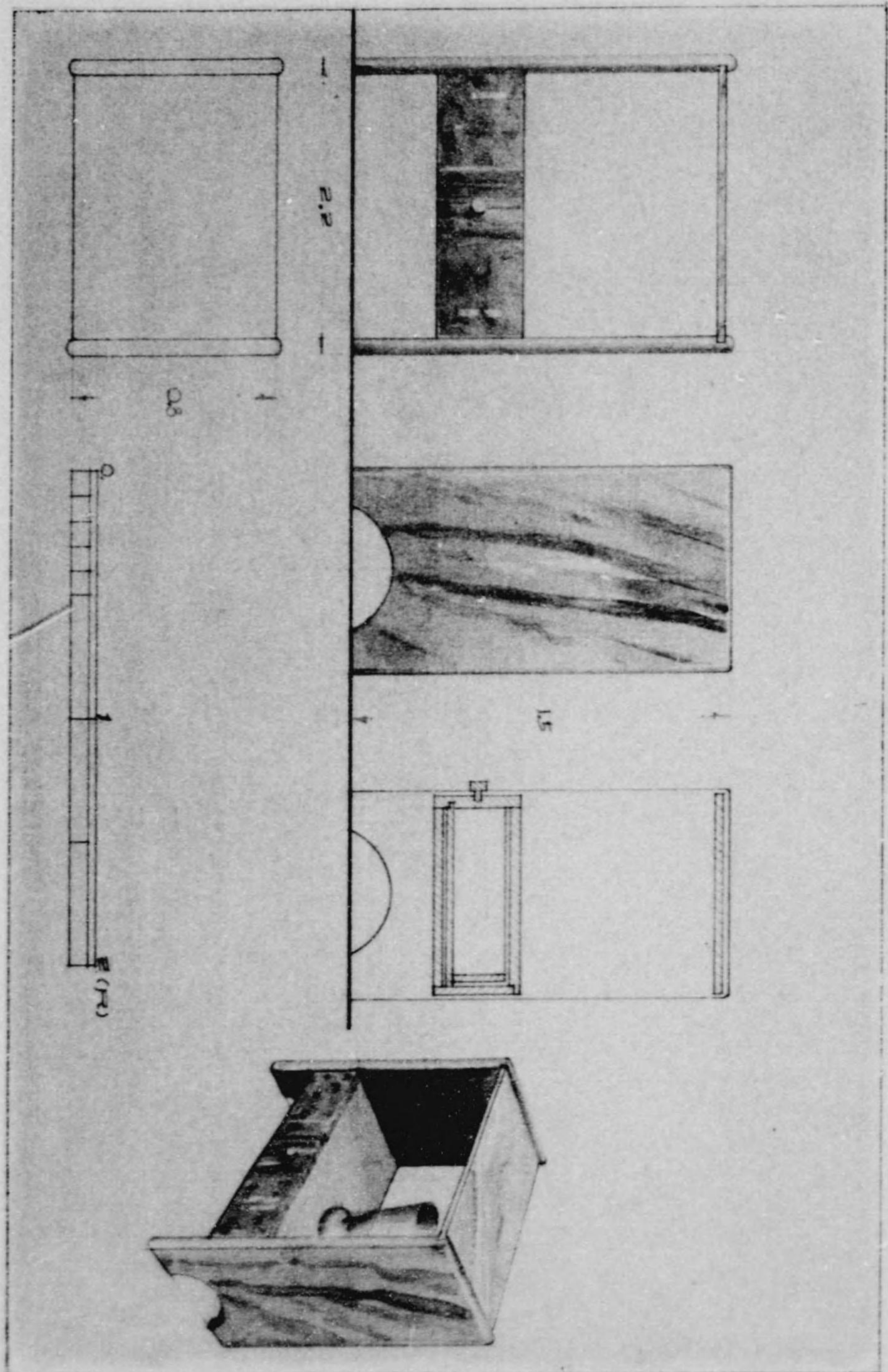
38
9



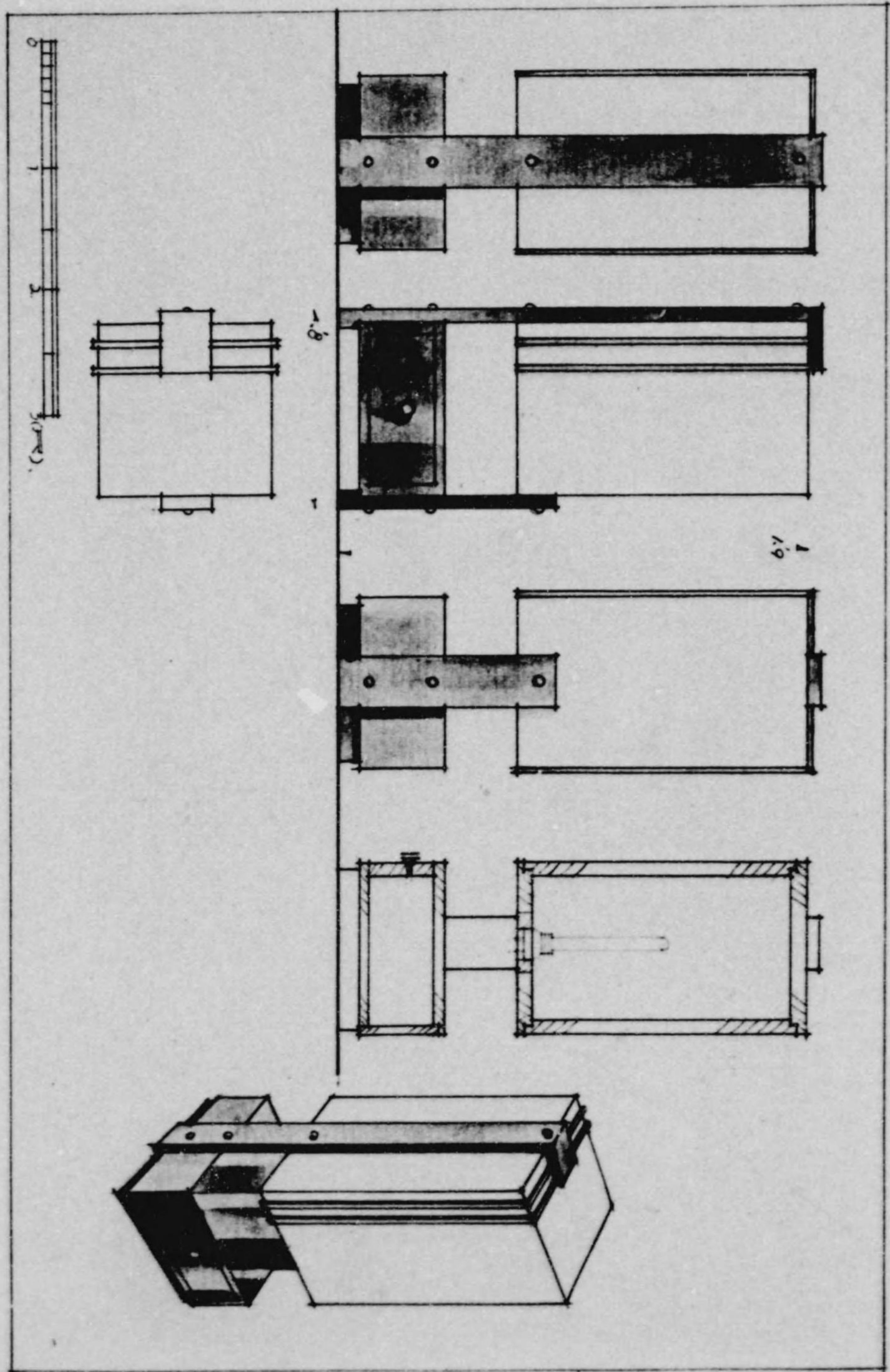


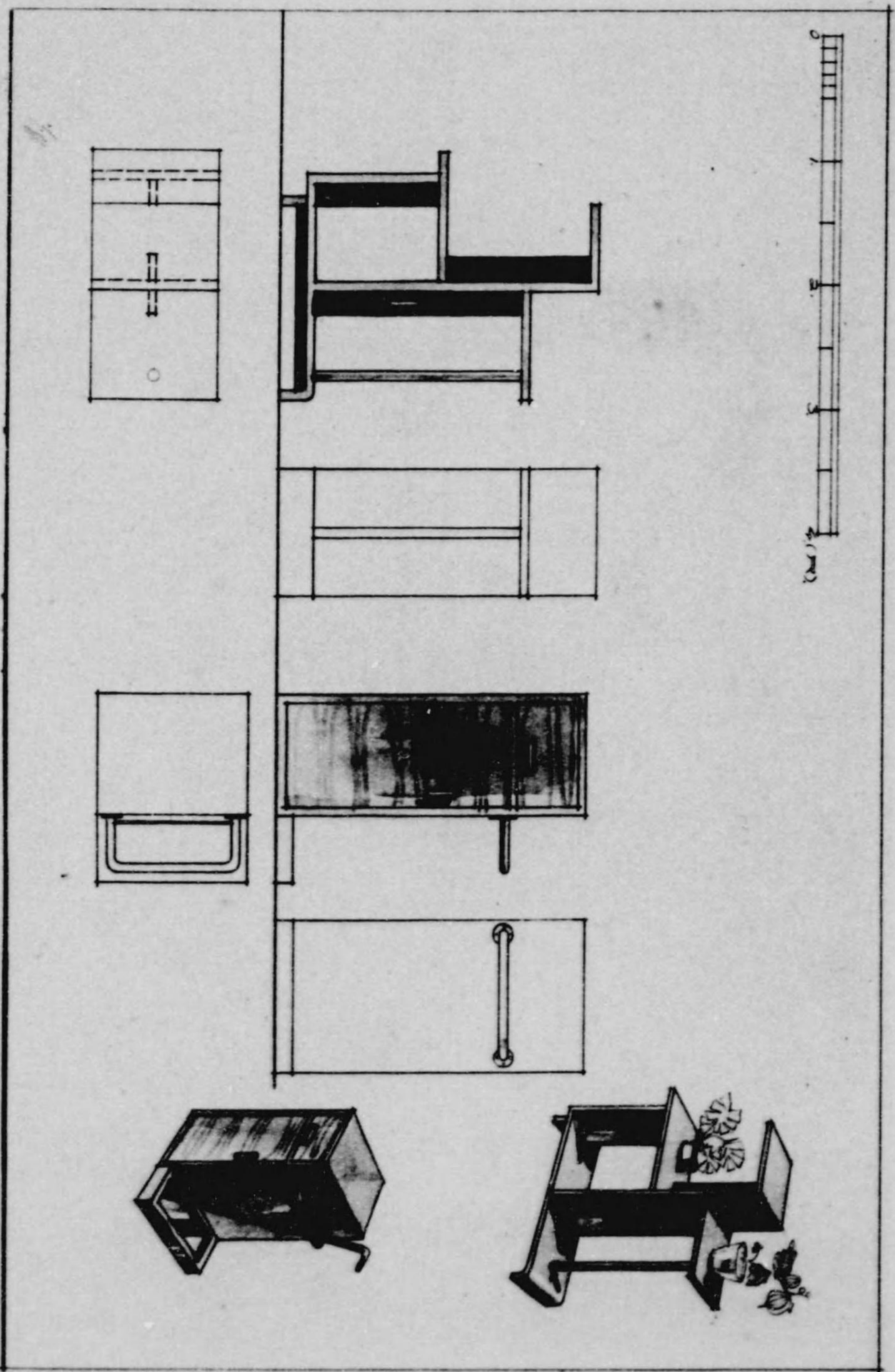
(圖製工木) 二 “ 立 本 付 出 抽

(圖製工木) 三 “ 台 物 置



(圖製工木) 四 . . . ボックス 電気 電





(圖製工木)

五

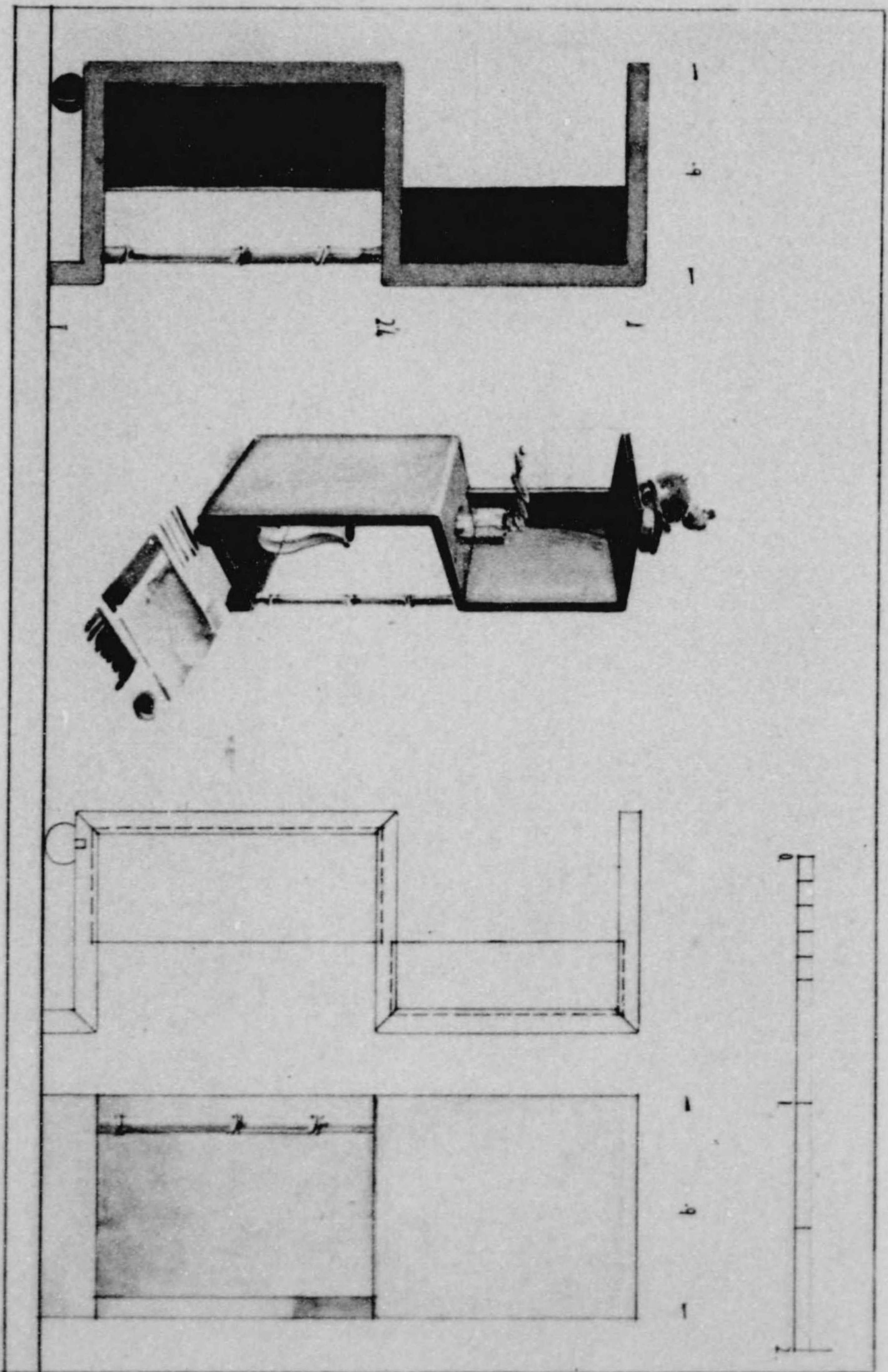
立

架

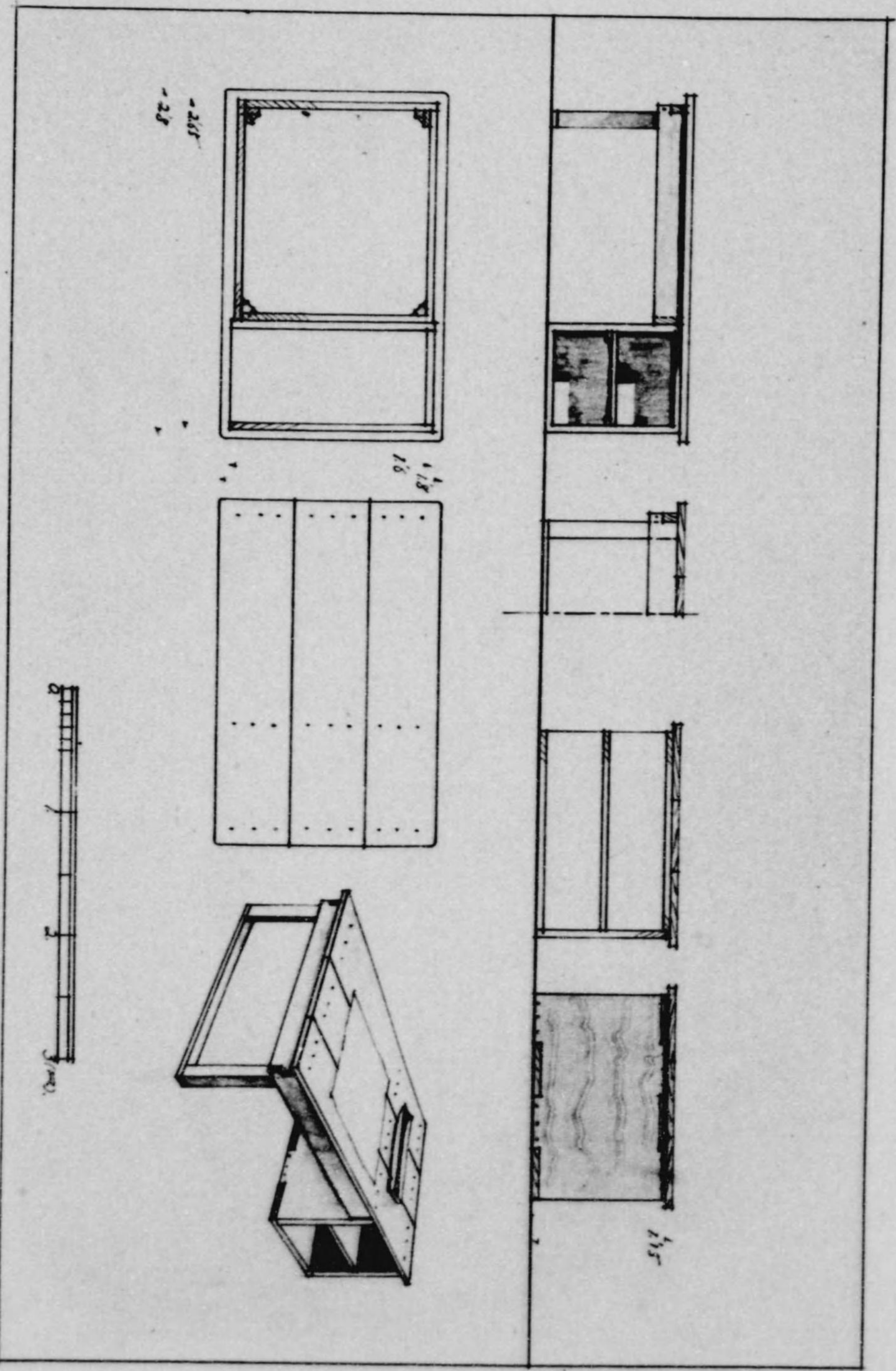
と

台

花

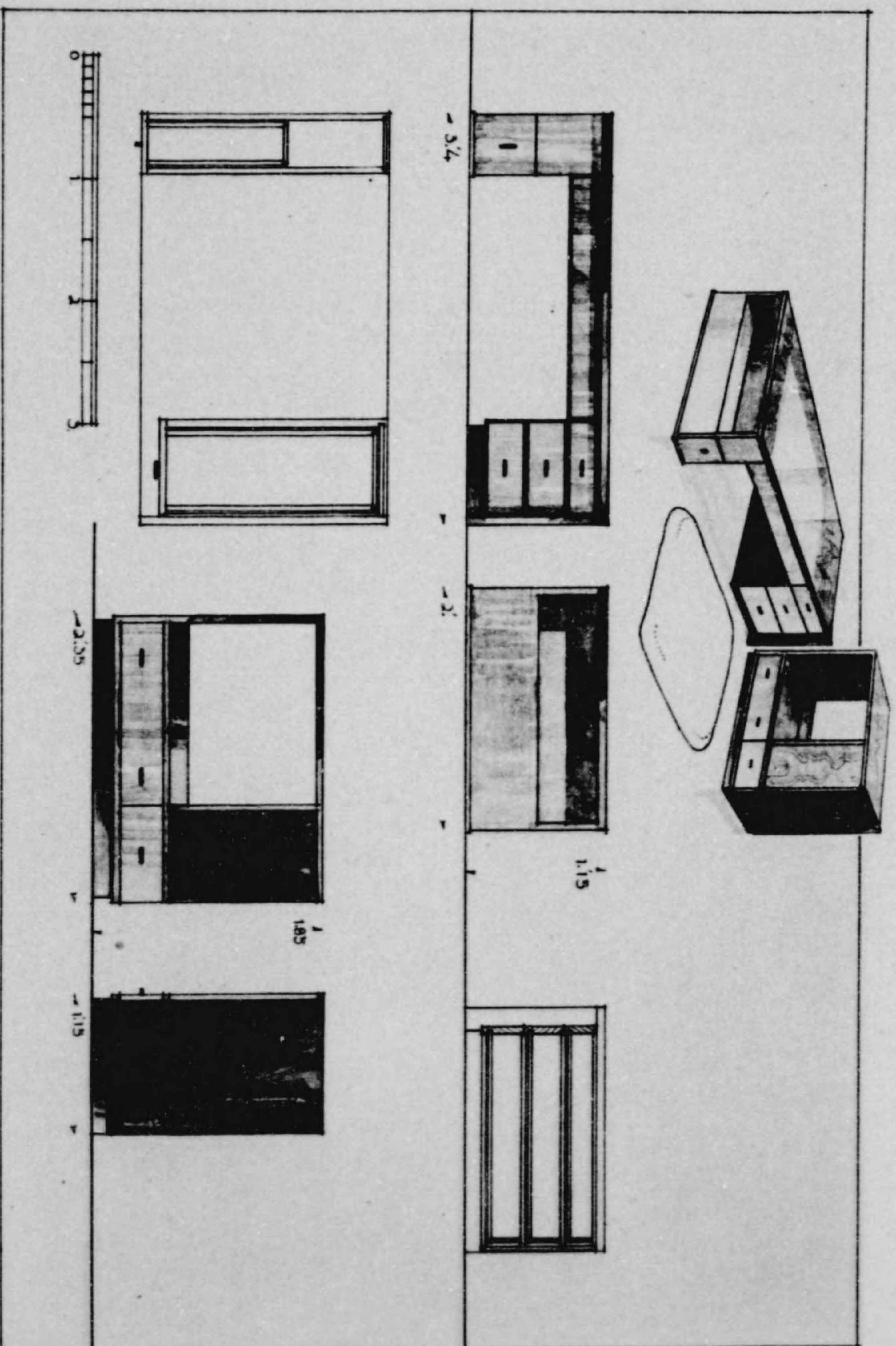


(圖製工木) 六 台 花



(圖製工木) 七

机 座



(圖製工木) 八 箱 木 七 机 座

圖 版 解 説

設計圖説明中に記載の材料及塗装については必ずしもソレと限らずその場合により適宜考慮工風されて差支へなし。

1 本立と短冊差

用材は、楢、タモ又はラワン材が適當。塗仕上げは小端をダークな朱のエナメル塗、他はウオーナット仕上げとする。

短冊差は異つた材料の薄板を貼付によつて従来の型式と變つた構成である。薄板の材料は神代杉、タモ、桐材等が適當である。

2 抽出付本立

用材の種類を少なくして、割合に工作を手輕に、使用の目的に添ふやうに工風せるもの

3 置物台

帆立、甲板に楡(材質の柔かいもの)を使用し、抽斗は中央に縞黒檀、兩側に楓空材、甲板は楡材を使用する。

4 電氣スタンド

下の抽斗以外には困難な工作はなく、傘の

部分上張り紙とし、本材料は桐又は杉材とすれば軽く又單なる構成によつて日本趣味のものとなる。着色塗上とせず、生地仕上げとする。

5 花台と傘立

花台は花を並べて釣合の取れるやう構成を工風せるもので、傘立は左方を下駄箱及小物入れの實用途を考慮せるものである。

6 花台

用材は楢、シホシ又は稍々高價になるが本櫻か、チーク材で、塗仕上げはクリーム色のエナメル又はラッカーとし、本櫻、チークならば生地をいかす様にラックを軽くかける。

7 座机

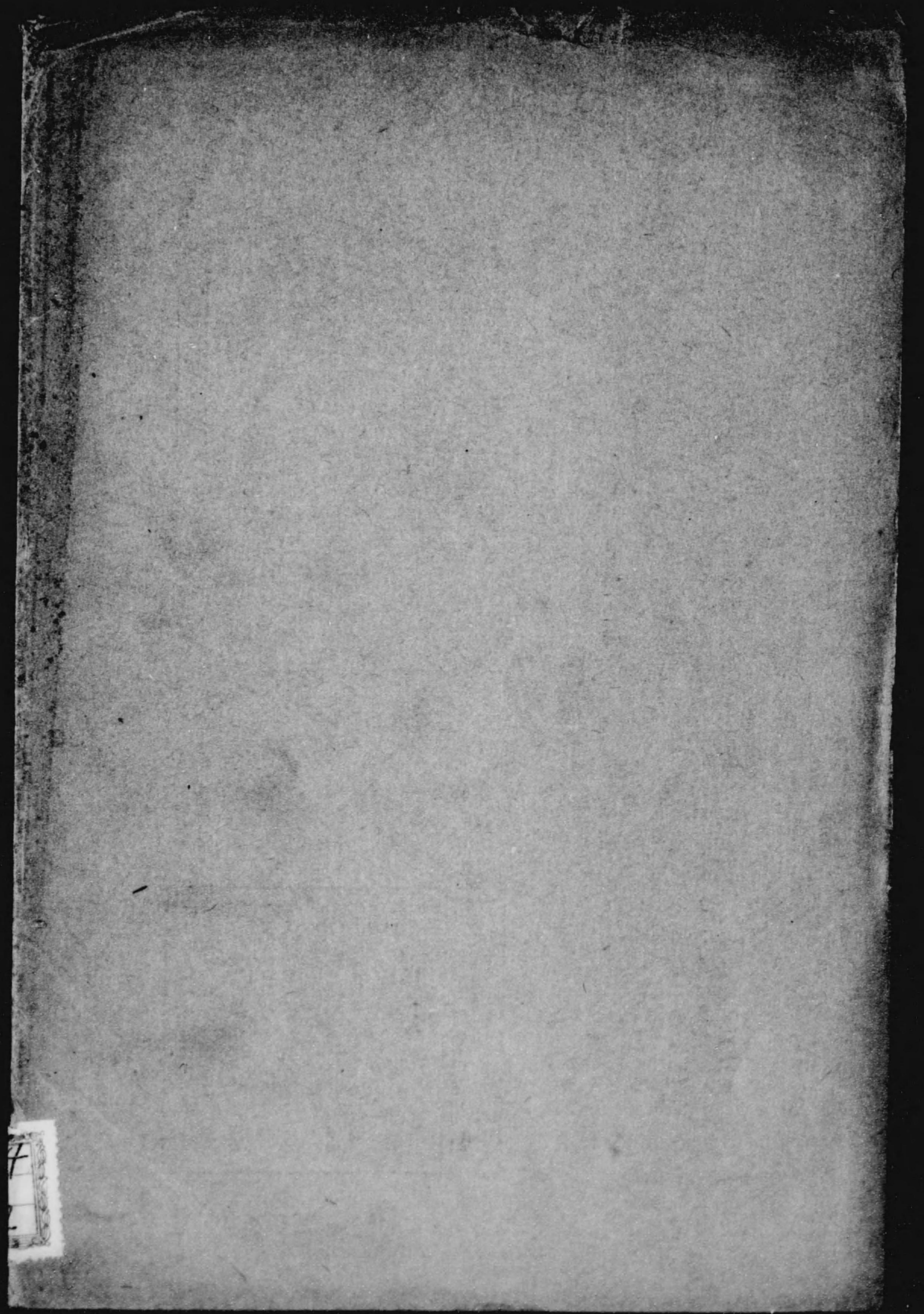
木工製作として平易な構造によつて組立てたものである。机は右側抽斗を箱とし別に造り置きとし、甲板から釘打付とする。但しこの箱は台輪を廻せば理想的である。

8 座机と本箱

前の7の工作をやゝ難かしくし、無駄なき實用的な机に多少の變化を工風せるもの。

月刊 家具画報 一ヶ月分 三十三銭 半年分 一圓八十銭

昭和十三年八月二十五日印刷
昭和十三年九月一日發行
定價 二十五銭
東京市小石川區大塚坂下町七一
編輯發行人 久保彌一郎
東京市神田區西神田二丁目廿五
印刷所 隆生社印刷所
東京市小石川區大塚坂下町七一
發行所 日本工藝學會
振替口座東京五八六五四番



7